



『教会はキリストの体、一人一人はその部分』

コリントの信徒への第一の手紙12章27節

日米合同教会は、特にニューヨーク市近郊に住む日本人並びに日本に関心を寄せる人々に、礼拝、交わり、学び、伝道・宣教の業を通してキリストの福音をのべ伝え、キリスト者として共に信仰を深めていくことを目的とする信仰共同体です。

◇牧師からのメッセージ◇

苦難、忍耐、練達、そして希望 ◆ ナチスのユダヤ人収容所で残酷きわまりない生活を体験した精神分析学者のヴィクトル・フランクルは、「夜と霧」と題した手記の中で、希望を持ち続けた人は生き残り、希望を捨てた人はその時点でばたばたと死んでいったと書いています。◆希望は楽観主義とは異なります。楽観主義は私達の前に立ちだかる大きな障害を、たいしたものではないと無理して言い張る負け惜しみ主義です。現実から目を背けて、問題があっても問題がないかのように振る舞う非現実主義と言ってもいいかもしれません。◆希望は楽観主義と違って、私達の前にたちはだかる様々な障害をしっかりと見据え、それとがっぷり四つに組みながら、常により良いものを追い求める積極的で、能動的な生き方を可能にする原動力です。平和とはそのような生き方をしている人間に与えられた心の安らぎです。◆パウロはローマのクリスチャンに送った書簡に書いています。わたしたちは神との間に平和を得ている、と。神の栄光にあずかる希望を誇りとしているのだ、と。パウロは、続けて書いています。「わたしたちは知っているのです。苦難は忍耐を生み、忍耐は練達を生み、練達は希望を生むということを。希望は私達をあざむくことはありません。」(ロマ5:3)◆パウロは苦難がないところに希望が生まれる、と言っているわけではありません。楽な生活をしているから平和だ、と言うのでもありません。苦難はパウロの回りを取り囲んでいました。逃げ出したいような状況は続いていたのです。彼が主張したのは苦難の中での希望であり、平和でした。苦難の只中で希望を持つことができる。何故なら、イエスが私達の重荷を共に背負ってくださるから。これこそが、私達キリスト者に与えられた希望の真髄です。

◇日曜礼拝説教の要約◇

■4月4日「イエスは甦られた」マルコ16:1-8 救い主だと信じていたイエスが十字架につけられて苦しみ、悶えながら息を引き取ったという事実を前にして、弟子達は立ち上がることができませんでした。空虚な墓の前で復活を告げられた二人のマリアとサロメは「震え上がり、正気を失い、逃げ去った」とマルコの福音書は記しています。男の弟子達はイエス復活の報告を受

けて、戯言だと思い、信じませんでした。しかし、程なく、弟子たちの前にイエスは生きて現れたと聖書は記しています。この衝撃的な出来事は、彼等を180度変革します。イエスが逮捕された時、彼を見捨てて逃げ去った弟子達は、身の危険も顧みずにエルサレムの神殿で力強く福音をのべ伝えるようになります。十字架の前夜イエスを3回も裏切ったペテロは、ローマで逆さ十字架につけられて殉教しています。◆「イエスは復活された!」、「主は甦られた!」この言葉に凝縮された復活の信仰を一言で言えば、私達の人生は死で終わるのではない、という確信です。私達がこの世で体験するすべての矛盾や不条理は完全に克服され、私たちの流す涙はすべて拭き去られ、すべての苦しみや痛み到我々の想像を絶する素晴らしい癒しが待ち受けているという信仰です。初期の教会の人々は、この約束と希望に文字通り全てを賭けていたのです。ローマの競技場を埋め尽くした群衆の前でライオンの餌食になるという、私達には想像もできない迫害と正々堂々と向き合うことができたのは、彼等が復活の希望によって突き動かされていたからです。◆イースターがあるからこそ、いかなる困難も、苦しみも、愛する者の死さえも、私達を絶望に陥れることはできないのです。南アフリカのアパルトヘイトと戦って20年近くも牢獄に幽閉されたネルソン・マンデラは言っています。「私を支えたのは復活の信仰だった」。マルティン・ルーサー・キング牧師は言っています。「私は死を恐れない。イエスが復活されたから。」マザー・テレサは言っています。「イエスが復活されたからこそ、私は死を目の前にした人々に微笑むことができる」。イースターはイエスの復活の約束がもたらす希望です。

■4月11日「わたしは主を見ました!」ヨハネ20:11-18 イエスを甦らせた神の力の前にマグダラのマリアは圧倒されます。人間の言葉は有限で、神の働きを完全に表現することはできません。その有限な言葉を使ってマリアは精一杯自らの驚きを表現したのです。「わたしは主を見ました。」このマリアの叫びには、いくつかの重要な意味が込められています。◆第1に、イエスの圧倒的な臨在感と迫力。イエスは生きておられ、今私と共におられる、という否定しようのない実感です。第2に、イエスを通して明白に啓示された神の性格。イエスは社会から虐げられていた貧しい物、病人、女性、子供など、弱い物の味方でした。イエスは彼の元に来るすべての人とパンを分かち合い、食事を共にされました。これらはいつの時代も変わらない神の意志なのです。◆第3に、イエスの死の克服。死とは単なる肉体的な死を意味するのではない。死とは不正義(いじめ・虐待・憎しみ・利己主義など)のことであり、不条理(義人が滅び、悪人が栄える)です。イエスはすべての不正義と不条理を徹底的に拒否され、それらの犠牲者を、風呂敷がものを包み込むように、そっと慈しみで包みこまれました。そして第4。イエスこそ私たちが徹底的に信頼できる唯一のお方であり、主であること。わたしたちが信

日米合同教会月報59巻2010年5月号

頼を託して常に裏切られるこの世の富、権力、力は主ではないのです。◆イエスの復活は、人間を徹底的に変革する力であり、常に私たちの日常生活の中で憎しみを和解に変え、不正義を正義に変えるのです。イースターは過去の出来事ではないのです。今現在私たちが人生の旅を歩む中で何回も、何回も起きるのであります。◆旅人が山道を歩いています。彼は疲れ果て、崩れ落ちるように座り込んでしまいます。天を仰ぐと、山の頂上に一条の光が見えます。旅人は急に元気を回復します。彼は立ち上がると、一歩一歩力強い足取りで歩きつづけます。旅人は私たちです。「わたしはイエスを見ました！」というマリアの叫びは山の上の光です。

■4月25日 岡田圭先生「襲われた人の隣り人」ルカ10:25-37 この聖書の箇所では主イエスは、私たちが人間として完全に生きるには神と隣り人を愛さなければならないと教えられています。それを聞いていた律法学者が、「では、私の隣り人とは誰ですか」と質問しますが、この質問の裏には「誰が私の隣り人ではないのですか。誰を愛さなくてもいいのですか」という思いが透けて見えます。私たち人間は、すぐこのように他者をランク付けしたがるのです。しかし、主イエスの答えは、このような考えを完全に引っくり返すものでした。主は「良きサマリア人の話」をされ、「あなたも行って同じようにしなさい」、つまり「あなた自身が苦しんでいる人たちの隣り人となりなさい、愛しなさい」と言われたのです。◆マタイ25章の中で主イエスは、飢えている者、病んでいる者、囚人などを助けた人たちを神の国へと招き、「私の兄弟であるこれらの最も小さな者の一人にしたのは、すなわち私にしたのである」と言われました。強盗に襲われて道に倒れている旅人の姿は、十字架上で血を流されている主イエスの姿にも重なります。私たちは今、誰の隣り人であるのでしょうか。私たちが神様から受けた恵み・いやしを、傷ついた人々ともっと分かち合うことが出来ますように。

◇教会の建物修理◇



4月12日(月)午後3時過ぎ、教会4階の外壁に取り付けられているタイルが歩道に落下する事故が起きました。他のタイルも落下する危険があるため、建物管理委員会・理事会はNY市の建築法に従い、歩行者を保護するためのプロテクション・ブリッジ(やぐら)を教会前の歩道に建てることを決定し、ブリッジは21日夕方までに完成しました。この建設のための費用は8500ドルです。

今後は、外壁の状態を詳しく調べた上で修理工事を始める予定です。どなたにも怪我を与えず、大きな事件にならなかった

ことを神様に感謝します。教会の建物を常に安全な状態に置くように、心を合わせてこの課題を担っていきましょう。

◇夏期キャンプ・修養会の情報◇

■子供サマーキャンプ 恒例の小中学生夏期キャンプ「ディスカバリーキャンプ」が、今年も7月25日(日)から8月6日(金)までロングアイランドのシェルター島で開催されます。対象は3年生-10年生、2週間のフル参加に限ります。プログラムは日英バイリンガルで持たれる予定です。参加費は一人総計1300ドル(兄弟参加割引あり)、6月15日(水)までにお申し込み下さい。詳しい案内・申込書がJAUCにあります。なお、キャンプディレクターはユニオン日本語教会牧師の相良昌彦先生です。

■東海岸合同ファミリーキャンプ 隔年で開催されている東海岸日本語教会合同ファミリーキャンプが、9月4日(土)から6日(月)にかけてエレンヴィルで行なわれます。今回は、テレビ伝道などを通して広く福音を日本人に伝えられている榎原寛先生(ワールド・ビジョン・ジャパンの理事長でもあります。牧師歴45年)が「愛に輝いて生きる」との題で主題講演をして下さいます。また、音楽ゲストとして岩渕まこと・由美子ご夫妻も来られる予定です。東海岸に住む日本人数百名が一同に会する貴重な時ですので、ぜひご参加下さい。5月30日の第一次締切りまでに申し込むと参加登録費が割引となります。第二次締め切りは7月11日。参加費は宿泊の部屋によって異なりますので、案内の書類をご参考下さい。案内書・申込書は教会にあります。当日はJAUCから会場までバスが出る予定です。なお、キャンプ終了翌日の7日には、岩渕ご夫妻のコンサートをJAUCでも開催する話もあります。お楽しみに。ファミリーキャンプのために、教会での連絡役を助けてくださる方を募集中です。ご協力下さい。

◇お知らせ◇

■牧師休暇 鈴木先生ご夫妻は4月21日から5月12日まで休暇を取られ、日本を訪問されます。

■白石義典兄・真理子姉ご夫妻、ご長男のけんちゃんは4月12日、白石兄のお仕事の関係でハワイに転居されました。白石兄とけんちゃんはJAUCで洗礼を受けられています。ご一家の新しい生活が神様の恵みに満ちたものとなりますように。

■メモリアルデー JAUC では5月30日(日)にメモリアル礼拝式が持たれます。昨年のメモリアルデーから1年の間に召された教会員の方々とご家族がおられましたらお名前、年齢、ご命日を教会事務所までお知らせ下さい。式上、関係者が献花をいたします。31日(月)のメモリアルデーには恒例の日系人会、日米合同教会、NY仏教会、NY日本語学校、日本総領事館、日本クラブの共催による墓参会がマウントオリベット、サイプレスヒル両

日米合同教会月報59巻2010年5月号

墓地で行われます。両墓地へは当日、日系人会が用意したバスがJAA前から10時に出ます。バス利用をご希望の方は電話(212)840-6942までご予約下さい。

■**アルファコース**:「キリスト教は初めて」という方のためのアルファコースが、4月28日から6月30日まで13回に渡って教会で開かれます。各セッションは毎週水曜日の午後7時から9時までの予定です。問い合わせはダウズ理加姉・ジェリ吉田姉まで。

■**婦人会バザー** 婦人会は6月20日(日)の午後2時から教会でバザーを開催する予定です。売り上げはハイチの復興支援、

並びに教会の建物修理のために用いられます。セールのための衣類、家庭用品、台所用品、アクセサリなどの献品を集めています。1階と3階に「婦人会バザー」と書いた箱を用意しますので、随時その中にお入れ下さい。問合せは富樫素美姉まで。



■**VIP集会** 4月のVIP集会は12日に開かれ、ハリソンでカイロプラクティックのクリニックをされている和泉宏典兄(グリニッチ教会)が証しをして下さいました。NY・NJ地区の日本人クリスチャンが集まって学びや証しの時を持つこの集会は、毎月第2月曜午後7時15分からJAUCで開かれています。ご参加下さい。

■**教会図書** 教会図書にはこの春、J・フーストン著『神との友情-あなたを変える祈り』(いのちのことば社)、『レフトビハインド』シリーズ、羽仁もと子著作集などの本が寄贈されました。また、英語図書のためにリディーマー教会牧師であるティム・ケラー師の話題の著『The Prodigal God』、ノーベル平和賞受賞者のデズモンド・ツツ司教著『God Has a Dream』が購入されています。

■**日本での再会** 3月に埼玉で開かれたクリスチャンイベントに、帰国された本屋敷一彦・美紀ご夫妻、クインタナ晴帆姉、下嶋順子姉、山田隆司兄と婚約者の斎藤優香姉、内野瑞規姉、また日本滞在中の日下部かおり姉が参加され、再会を喜び合いました。

◇祈りのリクエスト◇

次の方々をどうぞ日々のとりなしの祈りに覚えて下さい。■ロベルト・アセバード(アセバード兄のお父様)、ジェン・アーボン(春日姉のお嬢様)、伊藤ゆう子、岩佐敏夫、奥田久子、神崎ヨネ、熊田法子、小口愛(ウェストミンスター日本人教会)、ゴーマン美智子、田部一憲、野間美奈子、デスピナ・プロドロミディス(ホーガン姉のお嬢様)、松本二三子、吉田ジュンジ(バーンズ姉のお姉様の義父)、劉正花諸兄姉(五十音順)

◇理事会・財務報告◇

4月の理事会は3日(土)に開かれ、牧師館修理のプランその他の事項について話し合いました。◆**[建物管理委員会]**前回の理事会・役員会で牧師館修理のために6万ドルを準備することを決定しましたが、修理開始にあたって2万ドルを業者に支払うこととなります。予定通り6月ごろに工事を開始する予定です。◆**[財務]** 2010年1月-2月の教会の総収入は19,772ドルです。内訳は約束献金が11,799ドル、その他の献金は3,798ドル、他口座からの転入が2,719ドル、利子収入が1,456ドルでした。支出は総計24,303ドルです。

◇昔の記録から◇

70-80年代の日曜学校の記録を調べていましたら、昨秋帰天された下村敏子姉が子供たちに話されたお話のノートが見つかりました。面白く、しかも霊的にも深い意味のある話ですので、ここでご紹介したいと思います。◆1981年11月8日のクラスで、「年寄りのカニは今年も夏になると海岸にある自分の別荘へ避暑に出かけました。ところが、歩いて行くうちに1本の電信柱が道の真ん中にあり、どうしてもこれを越えなければ先へ行くことが出来ません。カニはブツブツ言いながらも、自分が行こうと決めた道順を変えたくないで電信柱の根元から頂上へ、頂上からまた下へ下へとやっとの思いで歩きました。すると、またもう1本の電信柱が目の前に立っています。カニはカンカンに怒りながらもまたゆっくりゆっくり上っては下り、そして何十本もの電信柱を越えてやっと別荘に着いた時には夏ももう終わりで、ほんのわずかの間しかそこには居ることが出来ませんでした。やせ細ったカニは、それでもまた何十本もの電信柱を上り下りしながら同じ道を帰って行くことでしょう。私たち人間もちょうどこのカニのように、ちょっと回り道をすれば簡単に行けるところを、自分がこうだと決めたことをガンとして変えようとしない、強情な心を持っていないでしょうか。人の意見を聞かないで意地を張っていませんか。強情も時には罪なのです。」



スモール・グループ

スモールグループは教会員の霊的成長のための教会プログラムです(自由参加)。少人数での親密な交わり(フェロウシップ)を通して、クリスチャンとして実生活でどう生きるかなどを考え、互いに支えあい高めあうことを目的とします。

SG 1. 女性信徒の学び会(ハインガル)	第2、4土1時	園田姉宅
SG 2. 日本人女性の会	第2火11時	時田姉宅
SG 3. 男性信徒の学び会(ハインガル)	第2、4日9時半	教会(日下部兄)
SG 4. 日本語での学び会	第2日2時	教会(春日姉)